

森林整備事業、森林売買
山林伐開、治山・造成事業
農業生産法人

株式会社 西村

兵庫県神戸市中央区北長狭通五丁目 2-19
TEL 078-382-1780



▲農業の一環として地域特産物の保存や、新しい特許工法によるハウス栽培を行っている。各関係大学研究チームにも所属しているという『株式会社西村』の取締役や大手企業など、業界のスペシャリストの協力を得て確立された、独自の農業を展開中だ。



◀風力発電と太陽光発電を同時に行える製品（株式会社・テクノロジ）。休耕地などを造成し、用地に転換して設置している。一流企業も注目する独自の風力発電法で特許も取得済み。

代表取締役社長

西村 嶺

『株式会社西村』の創業者であり、現会長を務める父親の姿を見て育つ。大学卒業後は企業勤めを経験し、僅か半年で同期内トップの営業成績を残して退職。その後家業に入り、やがて代替わりして社長職に就き、現在に至る。



西村 嶺社長・会長

対談
はねだえりか

まずは『株式会社西村』さんの事業内容から。
（西） 森林整備、造林・造成事業を手掛けており、国有林の間伐、民有林の集約化、森林経営計画の策定をし、良質な国産材の伐採・搬出などを行っています。森林活用総合コンサルタントとして、土木知識や森林整備技術を基に、森林の再生と活用に重点をおいた仕事をしています。また休耕地や放置山林を造成・開発し、太陽光パネルや風力発電装置の設置なども行っています。フリーピンでインドネシア産のゴム木を植林する取り組みも行っているんです。

林業や農業にかかわる仕事を広く手掛けていらっしゃるんですね。西村社長は代替わりをされて間もないようですが、ずっとこちらで経験を積まれてきたのですか。
（西） 大学卒業後、半年間だけ会社勤めをしました。もともと当社に入るつもりではいたのですが、現会長である父から社団法人でなければ会社には入らないと言われたんです。それで新卒の同期が100人ほどいた中でトップの営業成績をおさめ、「いずれは支店長に」との話もありましたが、退職して当社に入りました。
「すごいですね。トップを取れと言われても簡単に取れるものではないでしょう。会社としても社長を手放したくはなかったでしょうね。『株式会社西村』さんは会長が立ち上げられた会社なのですか。」

どこにも負けない組織力を武器に
業界を改革すべく、奮闘を続ける

森林整備、造林・造成事業などを行っている『株式会社西村』。創業者である会長が一代で大きくした企業であり、現在は西村嶺氏が代替わりし、会長の意志を引き継ぎながらも独自のカラーを打ち出した経営を行っている。本日は、タレントのはねだえりかさんが同社を訪問。「日本の一次産業を改革したい」と意気込む西村社長と会長のお二人に、詳しいお話を伺った。



（公） そうです。私は決して裕福ではない家庭で育ちましたから、親が苦労している姿を見ながら育ちました。学校は、自分でアルバイトをして貯めたお金で行ったんです。学業修了後はサラリーマンになったのですが、初任給をもらった時に「アルバイトと変わらないじゃないか」と思い、勤めていても時間の無駄だと感じました。それで1年を待たずに独立したんです。
もともと独立志向がお強かったのですか。
そういうわけではないのですが、漠然と自分は何かができる人間だと思っていました。独立してからは様々な失敗もありましたが、一生懸命やれば何とかかなる、絶対に人には負けないとの気持ちで、現在までやってきましたよ。
社長から見られて、会長はどんな方ですか。
（西） カリスマ性があり、従業員からも尊敬されていると感じます。柔軟な考え方を持っているから、人がついていくのでしょうね。見ていて勉強になりますし、影響を受けていると思います。お金儲けではない、自分のスピリットを貫き通し、信頼を大切にするスタンスは受け継いでいきたいですね。「忸まいが似てきている」と従業員から言われることもあります。



はねだえりか
（タレント）

「積極的な事業展開を見せ、現在日本の一次産業を変えるほどの大きなプロジェクトにも着手されているという『株式会社西村』さん。会長は命をかけて会社を育て、事業を行ってきたと話しておられました。西村社長はそんな会長と代替わりを果たされたばかりで、いざ経営を行ってみて会長の偉大さを感じるとおっしゃっていましたが、きっと会長に追い付き、追い越せる日が来ると思います。陰ながらではありますが応援していますので、これからも頑張って下さい！」

Check Point 「現代の百姓一揆」に向けて

□『株式会社西村』では、林業や農業にかかわる様々な事業を手掛けている。創業者である会長は、以前から食の安全について考えてきたという。安全な食のためには、綺麗な水や空気が不可欠。山を整備し、自然を守ることが安全な食につながると考え、現在の事業をはじめたのだ。近年は事業の幅を広げ、全国の農林業関係者と力を合わせ、国に頼らずに資金の管理をできる体制を整えるべく、『一般社団法人 日本農林水産』を設立した。農林業研究者やトップ企業が会長の考え方に賛同し、協力を約束したからこそ実現に漕ぎ着けたプロジェクトであり、誰にでもできることではない。会長は「現代の百姓一揆だ」と冗談交じりに話していたが、業界を変えたいとの想いは真剣なもの。一次産業に従事する人たちが生活しやすい社会を実現すべく、西村社長と会長は躍進を続けていく。